

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193700051		
法人名	医療法人 交雄会		
事業所名	グループホーム桜香		
所在地	〒052-0031 伊達市館山町36番地5		
自己評価作成日	平成30年2月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193700051-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193700051-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシエ研究所
所在地	札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	平成30年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人生の終盤を生きる高齢者が、認知症を苦にすることなく生き生きと過ごせるよう支援します。個々人の希望に出来るかぎり応えていく努力をします。ご家族と入居者様の絆がより良いものになるよう支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム桜香は、事業所の理念を基に、全職員でまとめたスローガン「生きる」を掲げ、利用者と職員が共に生きいきとした毎日を過ごすことができるよう、外出や日々の楽しみごとを増やしています。運営推進会議は、参加メンバーの増員により協議が活性化し、懸案課題に対する意見交換の充実や、地域との関係構築のきっかけ作りの役割を果たしています。地域関係では、幼稚園児の遊戯観賞を行ったり、園児の散歩応援隊になっています。利用者も応援隊としての役割を担い、頼りにされる存在として自信を持つなど、笑顔溢れる交流の機会に力を入れています。災害対策でも地域住民の協力があり、開設5年目にして着実に地域の事業所として認知されています。医療法人を母体とした事業所であり、利用者の健康管理や状態変化等でも迅速に指示を得られる連携体制があります。家族とも対話を図りながら、行事等で利用者と家族が楽しむ時間を共有し、離れて暮らしていても絆が深まるよう支援しています。前回の外部評価を踏まえて真摯にかつ積極的な取り組みを行っており、運営やケアサービスの質向上に努力しています。利用者を支える管理者、職員は互いに助け合い、チームとして良好な関係のもとで、利用者一人ひとりの安らぎと楽しみのある生活の提供に多彩なアイデアが提案されています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します	
項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	設立当初に理念を作って、毎朝の送り時に唱和していましたが、実践に結びつけずじまい。今年度から、常に職員、入居者が念頭において過ごせるよう、「活きる」の一言にまとめ、リビングの目につきやすいところにパネルとして掲示し、実践に結び付ける努力をしている。	事業所の基本理念とケア理念を踏まえて、職員間で協議し、基本的姿勢を端的に表現した「活きる」をスローガンとし、日々のケアサービスの実践に取り組んでいます。事業所内の要所に掲示し、利用者職員が共に生き活きと過ごせるよう、意識の統一を図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園の散歩の応援やお遊戯会の観賞をさせていただいたが、日常的な交流はない。	自治会に加入し、運営推進会議や避難訓練などで地域住民の協力を得ています。事業所の夏祭りは地域関係者に案内しています。近隣の幼稚園児のイベントや散歩時の応援隊としても交流する機会を持ち、地域交流の推進に取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	今年度より入居者ご家族にも案内をして参加していただいている。議題によって多くのご参加が得られている。後半には入居者が参加して意見を述べるなど意義のある会議となった。入居者やご家族の意見が反映されるよう努力している。	行政や地域代表、知見者の出席で定期的開催しています。課題であった家族や利用者の招集に努め、参加者が増えました。運営やサービス状況の報告、積極的な課題開示により、行政、地域、家族の理解と協力が繋がる会議になっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険係りの担当者にも推進会議に参加していただき、貴重な意見をいただいている。相談事なども気軽に受け付けて下さる。制度上のことなど助言をいただいている。	行政の担当職員とは、介護保険業務や制度上の不明点、課題等を随時相談し、適切な指導や助言を受けています。利用者が安心して暮らせる支援に向け、保護課の訪問時に情報交換をしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年度まで内玄関を施錠していたが職員会議において取りやめとした。来年度に向けて、自動ドアも解放したいところではあるが、いまのところスイッチは目につきにくい場所に設置されている。	身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。昼間は内玄関を開錠し、付き添いで利用者が自由に入浴できる環境作りをしています。関わりの中の不適切な言葉は職員同士で注意し合っており、拘束をしないケアの実現のため職員同士が互いに協力しています。	身体的拘束の予防等についての研修を行い、全職員が知識を共有することを期待します。また、運営推進会議で、職員の働く環境やストレスの予防も不適切ケアの防止に役立つという助言を受けているため、今後も知識と労働環境両面から取り組んでいくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	介護職員の自己評価を行い、虐待の要素がないか結果をまとめている。伊達市の担当者より、職員のストレスが入居者への虐待につながるケースがあると助言いただき、職員の個別面談など行いストレスチェックしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては、事例があり勉強する機会を得ているが、あくまでも受動的なものである。今後は能動的に勉強の機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に必要な書類を提示し、丁寧に説明させていた だいている。金銭面の説明、入居者の個室の環境整備に関しては詳しく説明している。苦情など細かな事でも言って下さるよう補足している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの少ない要望に関しては、できるだけ応えるよう努力している。ご家族からは個人的な要望はあるが、運営に関しては少なく、(運営推進会議への出席はまだ月日が浅い)今後の課題である。	利用者や家族の意見等は、様々な場面を通して聞き取るように努力しています。運営推進会議や面会時、電話やメール等でも積極的に意見聴取を図り、できる限り利用者、家族の意向を反映できるように努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は必要経費なども気にしながら勤務しており、必要な収支の資料の提示をしたり説明をしている。イベントの在り方や環境の整備なども職員から提案があれば応じている。また、人員不足の場合の勤務内容変更など、随時打ち合わせている。	管理者は、職員が自由に意見や提案を発信できる環境作りをしています。日常的な意見の吸い上げの他、懸案課題などはアンケートを取るなどして業務やケアがスムーズにいくように、働きやすい職場環境の整備を心掛けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	季節ごとの労いのコメントは欠かさず、人員不足に関する解決策などの提案に応じてくれる。職場条件の改善はなかなか難しい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足が改善されないため、職員の健康管理が優先され、計画はあってもなかなか実行の運びとならない。職場において、職員間で実務を通して介護技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は伊達市の多職種連携事業の勉強会に出席しており、サービスの質の向上につながっている。ホームで発症した風邪症状への薬剤師からのアドバイスなどいただいている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込み時及び入居となった段階に面談にて、本人の要望、希望、不安なことなどに傾聴することからはじめている。生活歴を中心に心身の状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず、利用申し込みのあった段階での御家族の困っていることに対する傾聴と助言をしている。すぐに入居できないことが多く、待機として申込みを受けるが、緊急を要する場合の対策などを助言し、少しでも不安がなくなるよう配慮している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居する段階では、本人のできることを家族の関われることを明確にし、本人と家族の絆が薄れないように配慮している。イベントなどへの家族参加も初めに声掛けしている。必要と思われる場合には、他のサービスの説明もしてつなげている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で入居者のできることはして頂く様努めている。一緒に楽しんでできれば良いのだが、職員の少ないときにはままならないことが多い。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院拒否のある入居者に家族の同行を願うことでスムーズに通院できたり、居室の環境整備に役かっていたりしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	不穏傾向が見られるとお孫さんの職場にドライブがてら出かけたり、なじみの道を通りながら当時の思い出話に耳を傾けたりしている。	友人等の来訪の際は、居室で気兼ねなく過ごせるように配慮しています。以前の自宅周辺に出掛けて知人と会ったり、見慣れた風景を眺めながら家族に会いに行くなど、本人にとって安心感のある馴染みの関係や場を大切に支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じた席替えや、くつろぎのスペースづくりを行い声をかけている。一緒に作業したり、ゲームを楽しんだりする中で自然と役割が出来てきている。			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には、できることがあれば相談して下さるようお話している。入院が長く退去を余儀なくされた場合には特に、再入居が叶わなくても相談助言はさせていただき、声掛けしやすい関係を保っている。			
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いま現在高齢であるかたは、自分の要望や希望をあまり出してくれないので、まず何でも言いやすい環境を大切にしている。入居者の立場に立って考えるのは容易なことではないが努力している。	日常的に思いや意向を表現しやすい環境を作り、職員は問い掛けをして、思いや希望の把握に努めています。家族とコミュニケーションを図る過程でも情報を得て、本人の立場に立った検討をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から聞き取り、既定のシートに記入している。入居後も把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居することを本人が望んでいることは少なく、やむを得ず若しくはしかたなくといったケースが多い中、心身の状態や好みなどはよくよく把握に努めており、担っていただける役割の把握にも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族、計画作成担当者、管理者が話しやすい環境で必要な意見を出し合いより良い暮らしを検討している。ほとんどがホームのやり方に沿ってとおっしゃるなかで、個別支援を引き出す努力をしている。	一部センター方式によるアセスメントを行い、本人の全体像の把握を行っています。介護計画は3か月または6か月毎に見直し、計画作成担当者を中心にカンファレンスで検討し、利用者、家族の意向や健康面を盛り込んだ計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録は個人ごとに記入しており、家族がいつでも見ることが出来る。一日の流れや食事量、健康チェックの変化への気づき、睡眠や排泄、役割や楽しみが分かりやすいしくみになっている。朝夕の申し送り時に職員間で共有確認を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	たとえば、お天気の良い日には誰も外へ出なくなり、ドライブ、日光浴、散歩は随時対応。道の駅に野菜を買いに、役所に書類を届けに、車に燃料を入れになどなど、誘って一緒にでかけます。カート押し、荷物持ち、喜んで手伝ってくれます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園の散歩の応援やお遊戯会の観賞をさせていただいている。避難訓練では、自治会長さんが声かけし数名の方が参加してくださっている。夏祭りにも招待し、顔なじみの関係づくりを心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を大切にしている。当ホームはそうべつ温泉病院の系列ではあるが、本人家族の意向に沿うこと、入居者の健康維持を重視することとしている。	入居前のかかりつけ医の受診を継続支援しています。通院の場合は家族と事業所が対応し、相互に情報共有をしています。母体法人の訪問看護が週2回あり、日々の健康管理と、状態変化や突発時は迅速に指示を得られる体制となっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師はホームの一員という認識で、入居者の細かな情報を共有している。入居者の家族の状況なども含め適切な対応ができるよう、職員との連携は密である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添い、必要な対応をしている。介護添書により、入居者の日常生活上の介護の情報を提供し、精神状態なども知らせ安心して入院できるよう配慮している。前もって病院関係者と関係づくりはしていないが、これまでの関わりの中で培われているものはある。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	看取りの体制にないこと、食事が摂れなくなった時に多様な手段を講じて水分栄養摂取が困難になった時点で入院していただくことは入居時に説明している。重度化したときには、訪問看護や病院と連携し、本人家族の意向に沿って対応している。	利用契約の際に、重度化や終末期の対応について指針を説明しています。利用者の状態変化では家族と共に医師の説明を受け、情報や今後の方針を共有しています。事業所の現状を踏まえ、出来る限りの支援を行っています。重度化、終末期等のケア技術の習得を図る方針を持っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が救急救命講習を受け、緊急時にそなえている。助けの必要があれば緊急時の連絡網にて駆けつける体制にある。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災は年2回の避難訓練を行い、消防署員の評価をいただいている。地震、水害他の災害に関しては、口頭のみで、実際の避難訓練はしていない。	消防署員と消防車、近隣からも複数名の参加を得て火災避難訓練を実施しています。また、職員は地域防災の催しに参加し消火器等の使用訓練を行っており、避難時における問題点は運営推進会議でも協議しています。非常用備品を用意していますが、自然災害の備えは今後の課題となっています。	地震等の非常災害の対応マニュアルを作成し、全職員の防災意識を高めながら実践的な訓練を期待します。災害時の避難場所等も家族に周知するなど、更なる対策の強化を期待します。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを重視した言葉かけ、敬うような言葉かけ、友人や仲間といった感じの言葉かけ、家族のような言葉かけ。相手によって心地よい言葉かけが違うことを理解して対応するよう心掛けている。	ケア理念に基づき、一人ひとりの生活歴や個性を理解する事で、人格やプライバシーを損ねない対応に努めています。特に排泄や入浴時のケアでは、利用者の自尊心に充分配慮して個別の支援を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	現在高齢である方の時代背景から、なかなか希望を表出してくれないので、こちらからあれこれ提案したりしている。2～3の中から選択してもらったり、思いを引き出すよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	なかなか希望を言ってくれないため、職員側の決まりや都合で過ごすことが多い。希望が言いやすい環境づくりが先決であり、言われなくても入居者の希望を察することに努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自宅から持ち込んでいるため難しいが、靴下やマフラーなどの小物は好みの色、似あう色に心掛け、上下のコーディネートは助言している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前で来ていたことが出来なくなってきており、現在では下ごしらえの一部や盛り付け、配膳、食器の片付けに留まっている。楽しく食事ができるよう、季節やイベントごとのメニューは多彩に心掛けている。	利用者の身体状況や力量を考慮して片付けや配膳などを一緒に行い、できる事を支えています。献立は、彩りや栄養バランスを考慮し、皆で和やかに食事をしています。季節の行事食や誕生会、握りずし大会や焼肉会など、食の楽しさを工夫しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの食事量は能力や疾病によって定めている。栄養バランスは月に一度栄養士に評価してもらっている。水分はこまめに記録して、1日不足なく確保されている。また、季節による配慮も行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア声掛け。介助の必要に応じており、歯科衛生士による評価に沿って行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁の少ない入居者の紙パンツ使用とりやめや、頻回のコール対応での自立支援を行っている。括約筋のゆるみが目立ち、パット使用が増えてきている為、括約筋強化運動を検討中。(訪問マッサージの利用など)	生活記録で排泄状況を把握し、一人ひとりの排泄支援を検討しています。トイレでの排泄を基本に、衛生用品や夜間のポータブルトイレ、立位排泄の習慣にも個別の対応をして、個々の身体機能に応じた自立支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容から便秘の入居者は少なく、服薬の影響で軟便の傾向にあるため、訪問看護と連携し下剤の調整など行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴は拒否のあったときには無理せず、日や時間をずらしている。個々の希望を全て取り入れることは難しいが、声掛けに応じない時は中止し、日や時間を改めている。	入浴は、週2回主に午前の時間帯で支援しています。拒否がある場合は、日時や言葉掛けを変えて対応し、無理強いにしない支援をしています。1対1の介助の中で楽しく会話し、リラックスできる入浴に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングで傾眠するのが心地よい人、夕食後もしばらくはテレビをみて過ごしたい人、夕食後も廊下を何回か往復したい人、昼からパジャマで寝たい人、それぞれであることになら問題ありません。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく服用始めた薬は特に副作用など気にして、経過観察しています。異変があれば訪問看護師に報告し助言してもらっている。休薬したり、専門科を受診したりの対応している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	仕事丁寧で仕上がりがきれいな人がいたり、仕事が雑で仕上がりがまひとつの人、やりたいと言う割には直ぐに投げ出す人、自分からはやると言わないけれどお願いすると頑張る人、決まった役割はきちんと行う人、いろんな人がいろんなこと出来るよう努めています。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出かけられる条件が揃ったら、即実行。ひとりひとりに対応するだけの職員はいませんので、その都度希望者を募り、外出します。散歩ひとつとっても歩く速度の違いや車椅子介助があり、制限がありますが、人数が多ければワゴン車で行けるのでドライブが多くなっています。	外出は、計画的な行事として捉えず、状況に応じて臨機応変に戸外に出る機会を作っています。気候の良い時期は庭先にベンチとパラソルを設置し、外気浴や畑作業をしています。買い物や受診後のドライブ、外食会やおやつ持参で市内の庭園の観賞など、戸外で楽しく気分転換できる場面を工夫しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今後の課題です。やってみたいと思っています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話することは難しくなっているが、必要に応じて電話口にてでもらっている。年賀状や暑中見舞いなど季節感のある文通を検討したい。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの掲示や飾りは欠かさず行っている。テレビはかけ放しにせず、音楽を流すようにしている。掃除は行き届いており、くつろぎの空間など工夫をしている。	建物全体がゆったりとした造りで、採光や温・湿度、清潔に配慮して、利用者が暮らしやすい環境作りをしています。共用空間には手作りの作品や観葉植物、季節の装飾を施し、居間と台所は一体型で、生活感や季節感が漂う温かみのある安らぎの場を工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、個々人の決まった席があり食事の提供などがされ、テレビとソファのサロンのコーナー、畳敷きのちょっとした作業のコーナーなど作っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなじみの物なんでも持ち込んで頂く様、なぜ必要かも説明している。希望であれば仏壇も可と話しているが、いまのところほとんどがさっぱりとしてる。ご家族と入居者では時代背景が違いこちらの意図するところが反映していないのが現状。	居室入り口には、それぞれ名前の表示や本人作製の装飾品を飾り、自室を認識しやすくしています。クローゼットが備えられ、馴染みの家具や畳・布団の持参、家族写真や鉢物を置くなど、本人の安心と心地よさを大切に環境を整えています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に関しては問題は少ないが、自立に向けた工夫はまだまだと認識している。			